

2022年7月12日

## MURC Focus

# EUからの輸入が激減するロシア

## ～ロシアはモノ不足が常態化している公算

調査部 副主任研究員 土田 陽介

- 貿易相手国の統計から推察すると、ウクライナ侵攻以降のロシアの輸出は、EU向けがそれほど減少しておらず、さらに新興国向けが急増していることから、堅調に推移したとみられる。
- 同様にロシアの輸入は、EUからの分が激減しており、また新興国からの輸入も増えていないため、全体として減少していると判断される。
- 堅調な輸出と減少した輸入を受けて、ロシアの貿易収支は黒字幅が急速に拡大したと考えられる。そしてこのことが、通貨ルーブルの「V字回復」につながった大きな要因であるとみられる。

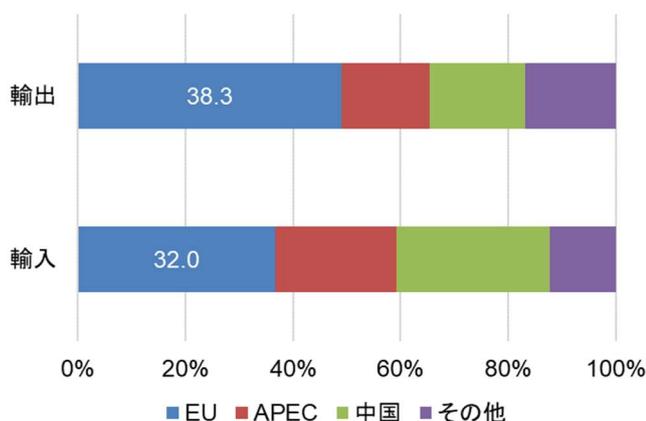
### (1) EUからの輸入が激減するロシア

2月24日にウクライナに侵攻したロシアに対して、欧米を中心とする国際社会は経済・金融制裁を矢継ぎ早に強化した。その一環として欧米を中心とする国際社会はロシアの主要行を国際銀行間通信協会（SWIFT）から排除したが、このことは貿易決済を困難にさせ、ロシアの貿易を減少させて経済活動を停滞させることを目的としていた。

ロシア連邦関税局は1月分の月次データを最後に、貿易統計の公表を取り止めている。ロシア連邦関税局はその理由が金融市場での投機を防ぐことにあるとし、一時的な措置だと強調している。とはいえ、貿易統計の公表が再開される目途は立っていない。いずれにせよ現状では、今春以降のロシアの貿易の動向は、相手国からの統計から推察するしかない。

図表1. ロシアの輸入の3割以上がEUから

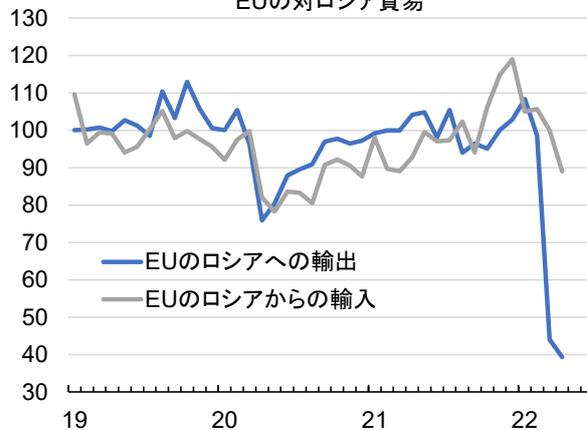
ロシアの貿易構造(仕向け地別構成比率、2021年)



(出所)ロシア連邦税関局

図表2. 激減するEUからロシアへの輸出

(2021年=100、季調済) EUの対ロシア貿易



(年、月)

 (注)数量ベース  
 (出所)欧州連合統計局(ユーロスタット)

ウクライナ侵攻の直前まで、ロシアの最大の貿易相手国は欧州連合（EU）であった。具体的には2021年時点で、ロシアの輸出の38.3%が、輸入の32.0%が EU との間で行われていた（図表1）。しかしながら、SWIFT 排除に代表されるロシア向けの経済・金融制裁を受けて、EU からロシアに対する輸出は減少していると考えられる。

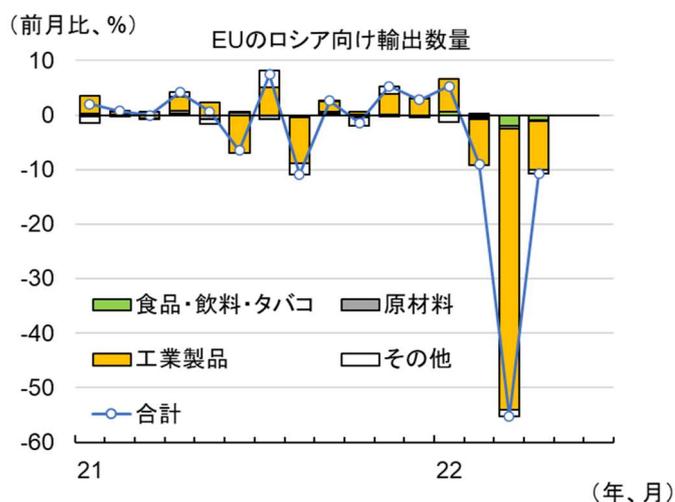
そこで EU 統計局（ユーロスタット）のデータからロシア向けの貿易数量指数（季調済）の動きを確認すると、EU からロシア向けの輸出が3月以降に激減していることが分かる（図表2）。具体的にウクライナ侵攻前の2021年を100とする指数で測った場合、2022年2月の98.6が翌3月には44.1に、4月には39.3まで減少した。

つまりロシアの EU からの輸入量は、ウクライナ侵攻後に6割程度減少したことになる。財別には、輸出の9割近くを占める工業製品の減少が顕著である（図表3）。そして3月には、工業製品の約半分を占める機械類および輸送用機器類が激減したことが分かる（図表4）。完成品のみならずロシアで完成品を生産するうえで必要となる半製品も減少したと考えられる。

この間、ロシアでは生産が急速に悪化しており、ロシア連邦統計局によると、5月の製造業生産は前年比▲3.2%と2ヶ月連続でマイナス幅が拡大した。特に自動車は同▲64.0%と生産が急激に悪化しているが、これは EU から部品などの半製品の輸入が減少し、ロシア国内で自動車の生産が難しくなったことを意味しているとみられる。

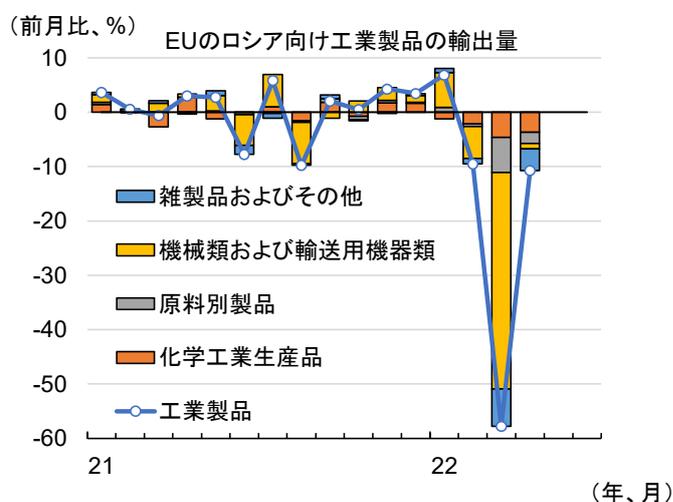
なお EU のロシアからの輸入量（2021年=100）は、最新4月時点で89.1と2ヶ月連続で減少しているが、輸出量に比べるとその程度は限定的である。今後も輸入の圧倒的部分を占める化石燃料の「脱ロシア化」の取り組みが進むことで、EU のロシアからの輸入量も減少してくると予想されるが、それには相応の時間を要するだろう。

図表3. 工業製品の減少が顕著



(注1)分類は SITC ベース  
 (注2)ウェイトは輸出額ベース  
 (出所)ユーロスタット

図表4. 機械類および輸送機器が激減



(注1)分類は SITC ベース  
 (注2)ウェイトは輸出額ベース  
 (出所)ユーロスタット

## (2) 新興国向けに増加するロシアの輸出

次に、ロシアと新興国の貿易のデータを新興国（中国、インド、トルコ）側の統計から確認すると、各国のロシアからの輸入（ロシアから各国への輸出）はEUが減少しているタイミングで急増していることが分かる（図表5）。この動きはウクライナ侵攻以降、インドやトルコに対してロシア産の原油の輸出が急増しているという報道と整合的である。

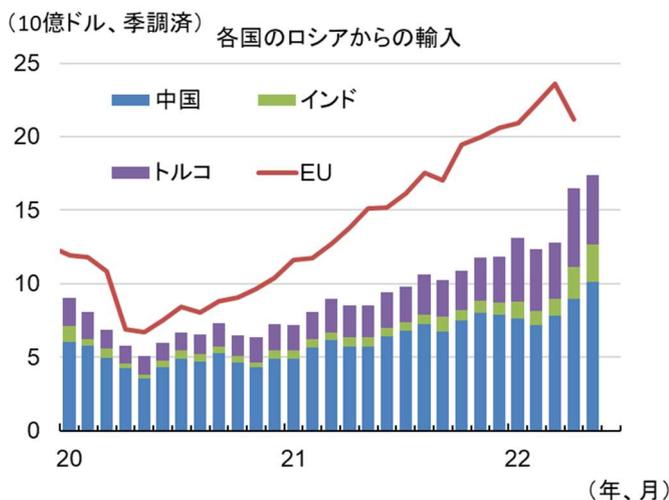
インドやトルコに対して、ロシアは国際価格よりも30%ほど割り引いた価格で原油を輸出しているとされる。インドやトルコは原油を石油製品に精製したうえで、ギリシャ沖で「瀬取り」を行い、EUに対して輸出をしているとも報じられている。ロシア産原油の価格が国際価格よりも安いと、石油製品に加工したうえで輸出しても十分に利益が上がる仕組みとなっている。

反面で、各国のロシアへの輸出（ロシアの各国からの輸入）はEUが減少しているタイミングでもあまり増えていない（図表6）。ロシアがEUから輸入していた半製品や完成品を、新興国から代替的に輸入することが困難である様子が見えてくる。新興国側の技術水準の低さや産業構造の特性があるため、中長期的にもどの程度の代替が可能か定かではない。

以上をまとめると、ウクライナ侵攻以降のロシアの輸出は、EU向けもそれほど減少しておらず、さらに新興国向けに急増していることから、堅調に推移したと推察される。他方で、ロシアの輸入はEUからの分が激減しており、また新興国からの輸入もそれほど増えていないため、輸入全体が減少していると判断して良いだろう。

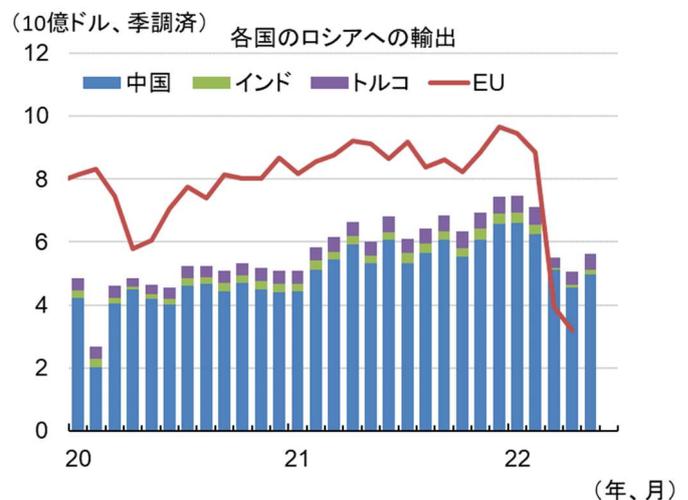
そしてこの間、堅調な輸出と減少した輸入を受けて、ロシアの貿易収支は黒字幅が急速に拡大したと考えられる（図表7）。そしてこのことが、通貨ルーブルの「V字回復」につながった大きな要因とみられる（図表8）。加えて、経済・金融制裁を受けて薄商いであったことも、ルーブル相場の「V字回復」を促したのだろう。

図表5. 新興国向けには堅調なロシアの輸出



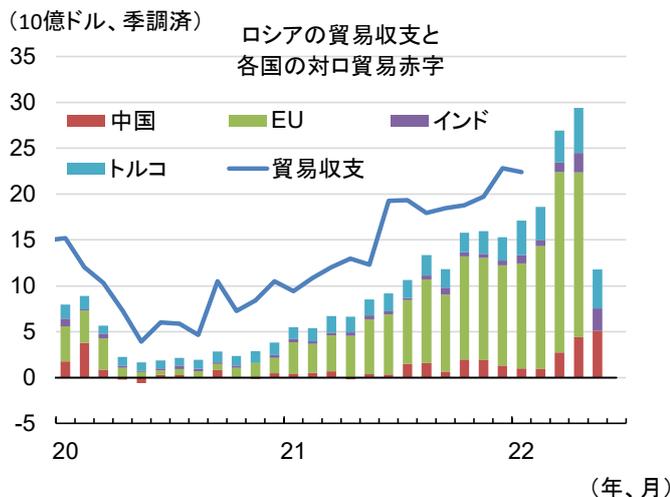
(注) TRAMO-SEATS法で季節調整を施した  
(出所) 各国関税局

図表6. 新興国からも増えないロシアの輸入



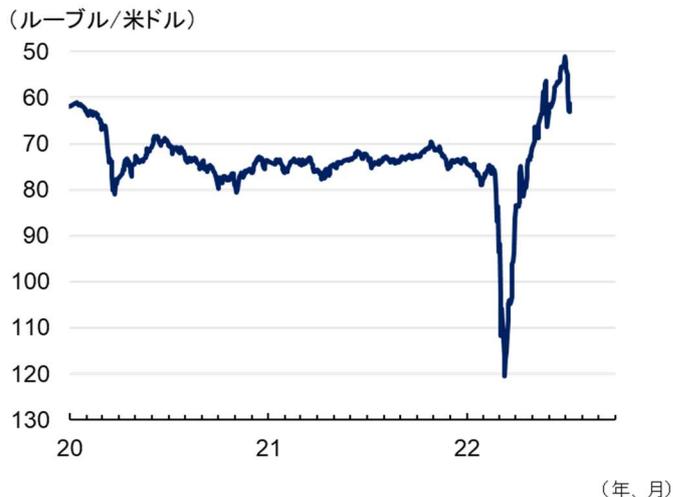
(注) TRAMO-SEATS法で季節調整を施した  
(出所) 各国関税局

図表7. 貿易黒字は足元で急増している模様



(注1) TRAMO-SEATS 法で季節調整を施した  
 (注2) 貿易収支はロシアの実績、積み上げ棒グラフは各国の対口貿易赤字  
 (出所) 各国関税局

図表8. 「V字回復」したルーブル相場



(注1) 日次  
 (注2) 終値  
 (出所) シア中銀

しかしながら、こうした貿易黒字やルーブル高は、ロシア経済が堅調であることを意味する現象ではないことに留意すべきである。むしろロシアでは、輸入の減少によってモノ不足が深刻化しているため、ピークアウトしつつあるインフレも、その主因がルーブル安からモノ不足に変わってきていると判断される。ロシアの経済は今後も高インフレが定着し、厳しい状態が続くだろう。

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。